

野生動物から守れる集落・農地に改善

1 集落点検で集落や農地を点検

集落内をみんなで歩いて点検します。「毎年イノシシの被害にあう場所」や「定期的にサルが来る場所」、「イノシシやシカの潜み場所」など、みんなで確認し、共有することで、集落や農地の問題点が見えてきます。



① 動物の潜み場やエサ場、けもの道を点検



② 点検結果を地図上に記入します。



③ 地図で動物の潜み場やエサ場、行動パターンを記入し、「見える化」します。

点検結果を地図にすることで、集落や農地の「ここが弱点なんだ!」、「こうすれば動物は近づかなくなる!」といった問題点や課題に気づくことができ、面的な対策が見えてきます。

2 守れる集落に環境改善

柵の設置や捕獲の前に、「収穫しない柿や栗などの「エサ場の除去」や、「動物の潜み場や侵入経路の解消」、「住民による追い払い」など、動物にとってエサが少なく、安心して生活できない環境に変えることが重要です。

緩衝帯の整備による潜み場解消



サルなどの侵入逃走経路となる雑木の伐採



生け垣のすそ枝の除去



家の植木や生け垣の下も動物の隠れ場になります。すそ枝を切ることで臆病な動物は近づかなくなります。

ロケット花火による追い払い

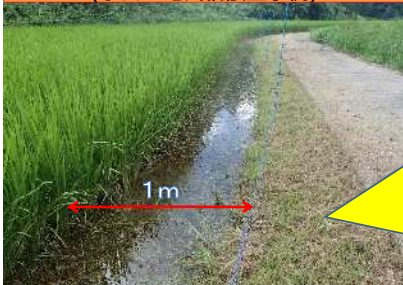


追い払いは、みんなで連携して行うことが効果的。動物が慣れないように、「いつもより一歩前で!」を心掛けましょう!
(ロケット花火の火事には注意!)

3 守れる農地に環境改善

守れる農地にするには、年間を通して、農地やその近くでエサを食べさせないことが重要です。また、柵を設置することを前提に農作物を作付けすることも必要です。また、管理がしやすい畝立や低樹高に仕立てた果樹園は、農作業の効率化だけでなく、追い払いもしやすく獣害に強い農地になります。

柵を張ることを前提とした植え付け (水田の電気柵設置事例)



柵の外から手も口も届かないように、柵と作物の距離は十分にとります。

高木化したくり園(エサ場)の低樹高化



数年後には管理しやすく、獣害にも強いくり園に再生!